

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2775802206		
法人名	明日香シニアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム明日香の里 2F		
所在地	大阪市平野区加美北4-7-10		
自己評価作成日	平成22年4月30日	評価結果市町村受理日	平成22年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775802206&amp;SCD=320">c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775802206&amp;SCD=320</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4F		
訪問調査日	平成22年5月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>1、職員は利用者個々の能力を活かし様々な手法で楽しみながらできる機能訓練を実施することを心がけている。</p> <p>2、1日のなかでも出来るだけ多くの笑いが生まれるよう心がけている</p> <p>3、利用者とは出来るだけ多くの対話を持つようにし一人ひとりの思いをくみ取るように心がけている</p> <p>4、利用者と家族と職員との協力が大切であることを理解し、積極的に交流を図り利用者の思いと家族の思いを傾聴するよう心がけている</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>介護付き有料老人ホームと併設してグループホームがあるが、「明日香の里」として併設の事業所は同じ理念で運営されている。事業所の介護方針の特徴として、利用者と共に生活を送るケアというより、洗濯を業者に委託するなど、ADL等の身体機能が低下して来ている利用者への1対1のケア時間をより優先することに徹した事業所である。家族も事業所の運営方針を理解をした上で利用を開始している。合唱や日舞などの趣味のアクティビティを多く取り入れて、変化のある毎日を過ごすことを心がけている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人指導の際、理念を紹介し理念の具現化と実行に向けたケアに取り組んでいることを理解してもらおう。基本行動指針にある「地域活動に参加し、適切な社会資源で生活をサポートすること」の意義と実行状況についてミーティングの場で話し合い、現場と管理者、代表者の温度差がないよう努めている	明日香の里としての共通の理念を掲げて、代表者と管理者、職員が協力して実践に努めている。引き継ぎ会には代表者も積極的に参加して現場の理解に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のいきいき交流会参加や地域ネットワークとの連携に努め、ボランティア受け入れや地域催しへの参加や当所での催しへの参加案内を定期的実施。	地域の福祉活動である小地域ネットワークのボランティア行事の「ふれあい喫茶」に参加して、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいき交流会で、グループホームの役割や日常的な介護の様子などを紹介した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的実施し、生活状況や取り組み状況の報告をし、意見を伺ってサービスに取り入れている。	半年に1回の頻度で運営推進会議を開催している。事業所の運営状況を中心に報告されているが、会議を活用するまでには至っていない。	運営推進会議はグループホームや介護の現場に対する近隣住民の理解と協力を得る機会として大切であるので、開催頻度を増やすことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターへの訪問により、市町村での催しなどの情報収集を心がけている。	主として、地域包括支援センターとの情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修時に身体拘束の学習時間を設けて、理解している。	管理者、職員は身体拘束が利用者に与える影響を理解した上で、利用者個々の介護の方策を決定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の学習の機会をもち、理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約者とは、個別に説明時間を持ち、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族も含めた食事会の中では積極的に家族同士のコミュニケーションも図りつつ、利用者にとって望まれること、ケアや事業所へ望まれることを何うように心がけている。日常的には面会時に必ず声をかけ要望を聞いている。	家族の訪問時には、利用者の暮らしぶりや健康状態を説明すると共に、年に数回の家族が参加できる行事を企画して、家族との連携や理解協力を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを開催し、意見や疑問を聞き改善点を相談している。	代表者自らが積極的にミーティングに参加して、職員の日ごろの努力を知り、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自身を振り返るシートを使い、職場環境や上司との関係も評価してもらい、またやりたいこと、苦手なことも項目に入れ、自由記載してもらおう。管理者や代表者はミーティングや申し送りに出席し、常に状況把握に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外での研修紹介と参加を促し、それぞれの学びたい事も聞き取りしつつ研修計画を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との連携を図るべく、密に訪問し、交流機会を求めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴することの大切さ、本人の意向を第1に考えることを周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの際は、本人とは別に家族と相談する時間を設け、サービス導入に至るまでの経過及び家族のケアへの労い、今後のケアへの願い及び共同を必ず相談する		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意向を第1にうかがったうえで、家族と本人にとって最善の策をともに相談するように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵を学ぶ姿勢で日常的に伺いをたて、伝統や慣習の継承を促すとともに、日常的な作業については、可能な限り共同作業している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス導入時に、家族の築いてこられた絆にかなうものはないことを相談したうえで、ずっと共同してケアしたい旨を伝えつつ、面会時は細かい変化を必ず報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会を推奨し、外出機会も出来る限り多く持てるよう努めている	家族の協力を得て、買物や外出、外泊の機会をつくり、利用者が家族との絆や友人との付き合いが維持できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業やアクティビティを通じて、利用者の協調や共同機会を持てるよう、日常的に実施している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の利用者から、電話相談などを受け付けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や習慣を十分に情報収集し、これからの暮らし方や生き方については、意向を重視すること前提で、相談している	入所時に本人や家族から聴き取った生活歴や、事業所での新しい暮らしへの希望を聞き取り、それらを介護計画書に反映しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出身や生活歴、慣習、趣味、嗜好をサービス導入時に聴き取るとともに、サービス導入後も、日常的に確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者のみならず、全職員が様子を密に観察し、記録に残し、申し送っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者のみならず、居室担当者及び全職員が新たな課題を見出すと、意見を出し合い課題解決に向けていろいろな支援方法を試みている	居室担当職員が決められている。担当が課題を抽出して、カンファレンスでは職員が意見を出し合いながら介護計画書の見直しにつなげている。家族への説明も徹底している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録票や健康記録票、業務日誌、申し送り簿、を通じて情報共有し、ケアに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスにとどまらず、必要に応じて、外出支援、移送サービス、買い物代行などの支援を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	其々の身体能力に応じた移動手段で、地域への外出を支援し、笑顔や楽しみといった表情や発言の間かれるケアに努めている(外出・菜園・買い物等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の必要に応じて、今後の健康管理も含めて本人および家族と相談のうえ決定し、受診の支援を実施している	代表者の親族が協力医療機関の主治医となっているので、連携が信頼度が厚く維持されており、家族や本人の安心材料となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化でも相談し、支援の体制や意向を重視したうえでの受診や看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は華族の了承のもと、入院に至るまでの経過及び基本情報等を医療機関へ情報提供している。また、入院後も必ず様子を見に伺うと同時に、MSWや病棟看護師へ働きかけ、退院へ向けての連絡調整をとるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化している又は重度化の可能性がある場合、必ず家族へ説明し、今後の生活や医療の意向を確認するとともに、ケアの在り方を相談している。	「重度化」及び「看取り」に関する指針を作成している。対応が必要となった場合には、家族と相談して出来るだけホームで支援する方針や姿勢を家族に伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人指導の際に、緊急時の対応を学習する機会を持ち、AEDの使用法や胸骨圧迫等の学習を定期的実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し、誘導の方法等もマニュアル作成の基随時確認している	災害対策のマニュアルも整備されている。消防の指導を受けながら定期的な訓練を行っている。併設の事業所の夜勤体制もあるので心強い面もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の納得する方法を探求し、人格やプライバシーに配慮したケアに努めている	職員同士が注意しながら、プライバシーへの配慮についてはミーティング等で徹底されている。職員による言葉かけも丁寧である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に実施するアクティビティも、利用者の希望や望みを伺うように努めており、いくつかの選択肢を提供するなどの工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	排泄は時間誘導ではなく、本人のペースや習慣を重んじてケアしている。入浴時間なども個人の意向に沿うように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアの際、職員とともにその日の服を選び、整容整髪も個別に実施している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が出来ることを出来るだけ実施してもらえるよう支援している。	職員は見守りを中心に食事介助を行っている。能力が残っている利用者は準備や片付けに参加する場合もある。現状では、後片付けの効率等を優先してメラミン食器が使用されていた。	食事は利用者へのケアの機会として、色々な意味で大事な時間と考えられる。陶器を使うなど食器などにも配慮されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量はすべて記録に残し、個別に必要な摂取量の確保に努めつつ、食事で摂取できない場合などは補食を用意するなど工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや歯磨き、義歯洗浄等、必要に応じて実施し、感染予防のため、イソジンガールを使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の有無や個人の排泄習慣を出来るだけ把握し、移乗困難な場合でも、指示動作の困難な場合でも出来るだけトイレでの排泄支援を行っている	利用者個々の排泄の習慣やパターンを把握して、自立した排泄が維持できるように、タイミングを見計らった誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の勧めと把握に努め、適度な運動をすすめ、排便を促している。便秘傾向の場合、腹部マッサージやホットパックなどのケアを行い、医師の指示に従って下剤を服用してもらうこともある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間の希望を利用者に伺い、体調や気分によって変更している。個別対応で入浴してもらい、好みの湯温や時間に配慮している	利用者の希望を聞きながら、入浴の予定を決めて実施している。職員は本人がゆっくりと落ち着いて入浴できるように、上手に話しかけたりする工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の習慣を重視するとともに、体調や気分の変化により、居室での静養時間等をもつように努めている。体操や散歩後は水分補給と休息時間を必ず取っている。また居室での休息や睡眠時の環境調整は全員実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、個別に支援し、飲み込みを確認するまで近位で見守る。医師の指示や処方内容が変更になれば、必ず周知するよう業務日誌や申し送り徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別にやりがいや喜びと感じていただけることを探求し、提供している。(おしぼり巻き・テーブル拭き・献立記入・ゴミ袋作り・テーブルゲーム用意等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日その日の希望に沿った個別の外出は実施出来ないが、家族に協力を求め、外出援助してもらったり、催しとして外出するなどして希望に沿うよう努めている。「ふれあい喫茶・花見・園内散歩・四天王寺参り等」	外気に触れたり、外の雰囲気味わってもらえるように、外出の行事を計画している。家族に協力をお願いして買物や外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針で、基本的には金銭は所持しておられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話はいつでも利用できるよう用意しており、希望に沿って支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室やトイレなどに利用者の見やすい大きさや高さで、ネームプレートを作成している 毎月フロアの装飾を変え、季節感を取り入れる工夫をしている。装飾は利用者とともに作成している	廊下やトイレ等の共用空間も広々している。利用者への見当識への配慮もされた表示となっている。食堂の壁には利用者の作品等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングのほかにソファや椅子などを設置し、思い思いに過ごせる空間作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたなじみの家具などを利用してもらうよう勧めており、混乱を招かないよう出来るだけシンプルに整理しつつ、本人の意向を重視した居室作りに努めている。不足分は家族への協力を求めている	居室は広くゆったりとしており、清潔に維持されている。馴染みの家具や大切にしている写真が置かれ、利用者が落ち着いて過ごせる雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分には危険物となるようなものを置かず、移動に支障ない程度で、装飾している。手すりやバリアフリーなどのハードで解決できることは意見を出し合い改善している		